

誰もが安心して住み続けることができるまちづくり

千種学区防災会

地震、台風、大雨による水害など災害は必ず私たちを襲ってきます。

その時、自分の身を護るのは、原則自分自身です。しかし、この災害で亡くなる方の大半は、自分で災害が起こっていることを認知できない方、また、自分で逃げるができない方が犠牲になっています。

千種学区防災会では、平成30年7月の西日本豪雨の際、吉井川が増水し、

30世帯84人の方が万富公民館へ避難を余儀なくされました。この時、千種学区内の防災会では、単位町内会のコミュニティハウスを避難所として開放し、多くの避難者を受け入れていました。

避難所運営リーダー研修



しかしながら、自分で避難できない方にどのようにして避難所に避難してもらうかが課題として残りました。

そこで、要配慮者一人ひとりの個別避難計画を立て、一人の逃げ遅れも生まない取り組みを始めました。そして、個別避難計画の対象となった方を対象にして、個別避難計画に沿った避難訓練を実施し、一次避難所へ避難する人、福祉避難所へ避難する人など、実際に

災害が発生した時の対応を検証しました。

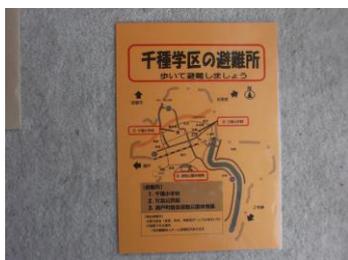
災害時避難行動要支援者の方は、家族で避難したり、近隣の協力者によって避難したりして、訓練の参加者から「安心した」「訓練に参加してよかった」の感想が寄せられました。

この他にも、避難所生活を支援する避難所運営リーダー研修を行い、避難所のレイアウトや任務分担などを、避難者と共に運営できる人材も育成しています。

災害に対応するのは、その地域に住んでいる住民が行政と連携しながら運営をしていくことが住民にとって安心につながっていきます。

その地域に住んでいる人が、その地域のことを一番よく知っており、災害を予測したり、避難者の把握なども迅速に対応することができます。

オレンジカード



千種学区防災会では、これからも誰もが安心して住み続けることができる街づくりをめざして、活動を続けます。

避難訓練（避難者の受付）



避難行動要支援者避難訓練

